第1回第3ブロック会議議事録（令和3年）

【日　時】令和3年8月19日（木）15：00～16：00

【場　所】箕谷会館　会議室

【参加者】別紙参照

1. 開会の挨拶　（入江会長）

コロナの感染が再び始まってきているが、前回とは違い感染者は若い人が多く、高齢者への感染は　少ないため、ここに出席されている人たちの対応も変わってきていると思う。ワクチン接種が未接種、マスク等ができてない人たちが集まるところでクラスターが、発生しているが、高齢者施設、医療機関等ではクラスターの発生はなくなっている。

北区医師会としても今までワクチン接種を積極的に進めていたが、今後も継続する予定。

現在のこのような状況から、来月予定していた総会も延期する予定。

1. 各あんしんすこやかセンターより報告

〇谷上あんしんすこやかセンター

今年3月で、10年間続いていた西大池のあんしんすこやかルームが閉鎖となった。今まで気軽に　　相談に行っていたが、そのような場所がなくなったといわれたため、明日、西大池地区で地域ケア会議を開催する予定であったが、緊急事態宣言のために延期。　日程は未定。

10年間の間にあんしんすこやかルーム近辺の西大池では、5か所の特徴ある施設、グループホーム、　小規模多機能、デイサービス等ができてきた。それぞれの場所で気軽に相談ができるような仕組みつくりを行っていきたいと考えている。

〇北町あんしんすこやかセンター

・コロナ、警報がありつどいの場での行事が延期・中止となり、地域の方々、職員も気落ちをしていた。緑町8丁目にあるライブシティの集会所にて、シルバースティあじさいのスタッフのサポートを受け健康増進教室が開催される予定であったが、コロナの影響で開催できなくなり、行き場がなくなった。今年4月からシルバーステイあじさいの応援がなくなりボランティア中心で開催したが、コロナ禍のため思うように開催できず2回しかできていない。ボランティアさんたちの士気も下がっている。

・高齢者宅の見守りを民生委員で行っているが、民生委員だけでは見守りができないために、友愛ボランティアというボランティアグループを作り高齢者宅の見守りを行っている。大原桂木地区では、活動できておらず、「ここの地区には認知症の人はいない、もしそのような方がいたとしても自分たちでは対応できない。」と言われていたが、民生委員の会長より、友愛ボランティアの仕組みを変えていきたいと言われ、認知症の人への接し方等について知りたいと希望あり、今後研修会等を行って行く予定。

1. 協議事項

〇服薬支援について

今までの流れについて説明（好田氏より）

北区のお薬きづきシートの活用方法について、事業報告会や各居宅支援事業所あてに郵送にて案内をしてきた。服薬支援のチーム内でも使い方について検討した結果、薬剤師の立場から見ると以前に比べると多少シートの活用が進んだようにも思われる。一度使用すれば使いやすいという意見等もあり、服薬以外の利用について検討もよいのではないかということで、多職種連携による服薬支援という目的でアンケートを実施した。

◇アンケート結果について

ブロック内、16カ所の薬局にアンケートを送付し6件返答。

・医師・ケアマネジャーには、連絡をとったことはある。

・医師との連携をとることが難しかったという返答が多く、このようなことを伝えてよいのかと思う。診察時間と重なってしまっている。薬剤師の立場から医師にこうようなことを伝えてもよいのか、と思う等の意見があった。

・今回アンケートの返答があった薬局は、在宅訪問は行っており、薬局によれば、昨年1年間で70件程の訪問をしていることもあった。

・訪問時間帯としては、午後が多く、地域ケア会議、担当者会議等にも参加はされており、午後の時間

帯が参加しやすいということがわかった。（詳細については別紙参照）

◇アンケートの結果からの意見

薬剤師から

・結果をみて安心した。みんなも自分と同じようなことで困っており、特に医師への連絡のタイミング

に悩んでいることがわかった。

・非常勤の先生では、午後からは連絡が取れないことも多く、連絡が翌日になり、対応が遅くなる。

・在宅に関わる人が少なく、担当医師の顔も見えにくい。今後在宅が必要と思う人がいれば声をかけて

ほしい。

ケアマネジャーから

・積極的に薬剤師と関わることがなく、特にお薬気づきシートは活用をすることはなかった。どうして

も薬については、訪問看護師やヘルパーに依頼することが多い。

・利用者の中には、病院ごとに薬局が変わっており、どの薬局と連絡を取ればよいのかわからない場合

もあるので、そのような時にお薬気づきシートを使うのもよいのかと思った

・必要に応じて薬局との連絡を取ってはいるが、お薬気づきシートを使っての連絡は行っていなかった。

今後お薬気づきシートの活用についても考えていきたいと思う。

＊集田氏：薬局においてあるが、キタールさん手帳があり、お薬手帳と一緒に入れることができる。

手帳内に薬局名等が書ける箇所もあるので、他の薬局と連携を取るということで活用ができる。

＊入江会長：高齢者の人たちにはコロナワクチン接種後のシールを貼る箇所を作り、コロナワクチン接

種後の高齢者に配布も行っている。キタ―ルさん手帳とお薬気づきシートが両輪となり活用すること

で連携も取りやすくなると思う。使用しながら、細かい箇所の見直しを行い、順次改訂版ができれば

と思っている。お薬手帳では、ワクチン接種済みのシールを貼ると、手帳が新しくなった時には、

わからなくなるということもある。今後他の予防接種でも対応できる。

＊横田氏：ワクチン対応をしていなかったが、空白ページがあったため、活用できるようにしたことで、

一部の医療機関で配布をしてもらっている。あんしんすこやかセンターでは、民生委員と一緒の訪問

時に配布をしたり、地域の集まりで配布している。

キタールさん手帳は、薬剤師より患者さんの担当ケアマネジャーがわからないということで作成。

それ以外の情報も記入できるので、ご本人がわからなくても周りの人が、それをみればわかるという

ようになっている。

□第3回北区包括ケア推進総括協議会総会について（横田氏）

コロナ感染が拡大してきていたため、本来であれば9月25日に総会の予定であったが、延期で調整中。来年2月または3月で調整中。

今回の総会では多職種連携による服薬支援、北神地区で行っているコロナ感染対策、ズームを使ってのオンラインの進め方、ケアマネジャーに焦点をあてたハンドブックの紹介、オレンジチームの活動報告等の予定で準備をしていた。延期になってもそのような内容で行う予定。時期等が決定すれば再度連絡を行う。

□北区医師会在宅医療充実強化推進事業（横田氏）

・北区における地域連携ＢＣＰについて（令和３年度）

北神地区でいくつかの事業所でコロナのクラスターが出たということもあり、北神地区の全介護事

業所にアンケートを実施。アンケート結果から、複数のデイ利用者がコロナの濃厚接触者となってい

たがわからなかった。近隣施設でクラスターが出た噂では聞くが事実がわからない等の問題点がわか

り、一ヵ所で問題を解決することは難しい。横との連携を取ることが必要ということで、北神地区で

地域連携の取り組みを進めている。３年前の西日本豪雨で交通が遮断されたことや、コロナの取り組

みが災害対策にも繋がる。

・地域小児在宅医療促進支援事業
障害を含め小児期より長期に在宅で診ている患者の抱えている現状の課題等について福祉、行政、

教育との連携で多職種が集まり意見交換会を行う事業。10月、2月に実施予定。

□こうべオレンジチーム活動報告

・認知症の初期集中支援事業で行っているオレンジチームの活動状況を報告。

北区は、昨年度神戸市の中で一番活動件数が多く32件あった。ブロック別では1ブロックが17件、2ブロックが5件、3ブロックが4件、4ブロックが3件、5ブロックが３件であった。

今年度は4月：4件、5月：1件、6月：4件、7月：1件で、10件。

認知症かどうか判断の難しい人を医療機関、介護施設につなげる等のきめ細やかな対応をしている。

今年度から看護師コーディネーター増え二人体制となり、事務所は、しあわせの村神戸リハビリテー

ション病院に移転。今まで以上に相談に応じることができると思う。

□北区医療介護サポートセンター活動報告

・4月から7月末までの相談件数は33件。4月はコロナに関しての相談が多かったが、それ以降は訪問

診療医や受診機関、施設紹介、制度について等、多種多様の相談があった。相談者としては、居宅の

ケアマネジャー、あんしんすこやかセンター職員が多かった。6月の相談で、障害者相談支援センタ

ーから、喀痰吸引ができるヘルパー事業所の情報提供の問い合わせがあった。市内の対応事業所等に

確認をしたが対応できず、今回大阪の事業所で対応できるところが見つかったが、ヘルパーが訪問で

きるのは、９月からとなった。ヘルパーでの喀痰吸引を行うためには、数か月の研修が必要となり時

間もかかる。今後地域課題として取り組んでいくことを検討している。

・研修は、6月にACP研修、7月に新型コロナウイルス感染症対策施設向けセミナーを実施。

〇第３ブロックの今後の運営方法について参加者からの意見

あんしんすこやかセンター、居宅介護支援事業所

・事例検討を行いたい。（ガン末期で退院してきたが、介護保険の認定期間が切れており、更新申請を勧めたが本人が拒否。介護保険を更新していなかったが、お風呂に入りたいという希望があったため、自費での利用も考えたが高額のため利用できず、介護保険の申請手続きを始める前に亡くなってしまったという事例）

・退院時カンファレンス。（病院での面会が難しくなったこともあり、自宅で最期を希望し急に退院するケースが増えている。急なため情報不足のことがある。）

・事業所内でのケース検討会を行っているが、研修等に参加して、グループワーク等の機会がないの

で、他の事業所の様子がわからない。ブロック会議を情報を知る機会にもしたい。

薬局

・あんしんすこやかセンターからの報告や病院の動き等を聞く事で地域の情報を得ている。

・症例検討会をすることで、薬剤師としての役割について考えることができる。こちらができること

も伝えることができるので、そのような機会を持ちたい。

・行き詰ってしまっている時に、多くの人の意見を聞くことができる機会にしたい。

病院

・病院として、できることを発信したり、患者さんに関する情報を伝えることはできる。

・退院前カンファレンスは、院内で参集式で行っている。

・病院として、キタールさん手帳の活用についても考えていきたい。

・薬のことについて、相談があれば対応できることもあるので相談をしてもらいたい。

＊現在の状況では、事例検討会や退院前カンファレンスを行うことは難しいので、オンラインで模擬

の事例検討会を行うことについて検討。

多職種連携ができるように、今回の参加者に参加してもらい、問題点を検証していく。

＊神戸市医師会としても、オンラインでの退院前カンファレンスを行っていくように進めている。

今後取り組んでいくのはよいと思う。3つの病院があり、それぞれの病院の機能が違うので今後も

協力をしてもらいたい。

＊歯科医師会より

・多職種連携で在宅の患者の診察を行っているが、寝たきりで嚥下機能が低下、誤嚥性肺炎で困って

いる。経口摂取ができないというような方でも義歯の作成希望があれば相談を受けたいと思うの

で相談をしてほしい。

・歯科の場合、なかなか連携がうまく取れていない。歯科医師として、できることをアプローチして

知ってもらうことが必要と思った。歯科医師としてできることでオーラルフレイルケアがあり、　薬剤師会で行っているフレイル予防ともつなげることができると思う。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　次回開催

　　　　　　　　　　　　　　　日時：令和３年10月21日（木）15：00～16：00

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 会場：箕谷会館　2階